

【人数・グループ】 4～5人のグループ



群の動きを生かしやすい人数で行う。
 ※人数が多すぎると、友達の踊りを見ているだけで、自分から動かなくなってしまうこともある。

【教具】 イメージカルタ

カード1枚に一つのイメージをイラストとともに載せておく。(B6サイズ)
 →裏返しにしたものをめくって、出たイメージを即興的に踊る。



※本単元「大変だ！」で扱ったカルタ

→2～4時で扱う小テーマの内容につながるイメージを選んでカルタにする。

小テーマ	「身近な生活」	「自然」	「生活・社会」その他
激しいイメージ	飛び出すサイダー！ 	火山が噴火した！ 	次々と打ち上がる花火！ 
	急に道路がトランポリン！ 	ハチの大群におそわれる！ 	大きなマグロにそうごうしたスイミーたち！ 
	つぎつぎと飛び出すクラッカー！ 	大型台風発生！ 	天井が下りてきた！ 出口を探せ！ 
	忍者のたたかいにまきこまれる！ 	酸性雨で溶けていく森林！ 	ブラックホールに吸い込まれる！ 
	激しく洗われる洗濯物！ 	船に乗っていたら嵐が来た！ 	いん石が落ちてきた！ 

みんなでやってみる(習得)

【活動】教師の言葉かけに合わせて踊る。



個人で表現に取り組む。教師の言葉かけを聞きながら、それに合わせてイメージしながら踊る。



教師は身に付けたい動きを引き出すことができるようなイメージを基に、子供の表現をリードする言葉かけをする。

身に付けたい動きを称賛し、全体で取り上げて共有する。

取り上げた動きを真似して踊り、身に付けたい動きを味わうことができるようにする。



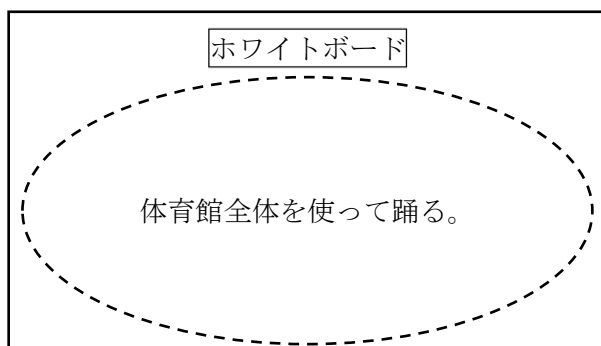
【場】体育館全体に広がって踊る。



一人一人が間を取って場の安全に気を付けながら踊る。表現上必要な移動はしてもよい。



子供の間を回りながら、全体に言葉かけをする。



【曲】小テーマの雰囲気合った曲（2～3分）を繰り返し流す。

（実証1、2で使用した曲）

「身近な生活」♪ 「Greatest Renegade Unveiling(GRU)」ヘイター・ペレイラ

「自然」♪ 「Da Plane and Da Cycle」マイケル・ジアッキーノ

【人数・グループ】 教師とクラス全体

イメージや児童の実態によりグループで行ってもよい。

(例) 群を生かした動き



【教具①】 イメージバスケット (大きいホワイトボード)

表したい感じやイメージを学級全体でふくらませて共有し、動きにして踊れるようにする。

(例) 噴火する火山・・・「ドッカーン」噴火する。

「ドロドロ～」溶岩が流れる。

➡イメージが動きに繋がる。



【教具②】 よい動きを書きためた掲示物「動きの貯金箱」

全体で見つけたよい動きを共有し、書きためていく。

⇒事前に、よい動きや工夫のポイントを書くためのカードを切って用意しておき、出た動きを書いて工夫ごとに貼り分ける。

